

新地理学的知識の最先端を越えて

モナ・ドモシュ*
(齋藤 元子** 訳)

Mona DOMOSH

Beyond the frontiers of geographical knowledge

Transaction. Institute of British Geographers, New Series, 16, pp.488-490, 1991

要約

ヴィクトリア期の女性旅行家の人生と業績を検証することは、地理学者の範疇に含まれる者の基準と出現しつつあった専門家にとって適切とみなされる知識のタイプに関して疑問を提起する。Stoddart のコメントに対するこの回答は、より包括的な地理学の歴史叙述を創り出そうと我々が試みる時、なぜこれらの疑問を提起することが重要であるかを明らかにする。

キーワード：フェミニスト、探検、歴史叙述 (historiography)

真の地理学者を真の化学者あるいは真の歯科医師から区別するものは、想像力を所有していることのように思える。特に未知の世界の刺激に対して敏感な想像力である。それは文字どおりの意味においても、そしてとりわけ地理学的知識の最先端の向こう側に隠されたままになっているすべてのものに対する比喩的な意味においてもである。(Wright, 1947)

私は Mr. Stoddart の著書『On Geography』に対して、地理学の探検遺産における重要な人物として女性が含まれていないという批判を行ったが、彼がそれを心に留めてくれたことに敬意を表す。そうしてくれたことによって、私に関心を持つ問題についての議論や論争を私自身が展開することを彼は助けてくれた。また the Royal Geographical Society (RGS) への入会を許可された女性の人数に関する正確な数字や適切なデータを我々に提供してくれたことに対しても彼に感謝する。

Mr. Stoddart は私の主張の少なくとも二つの局面に異議を唱えているので、それに応じて私の応答を述べたい。Stoddart は彼の著書に女性が含まれていないために道理に合わない攻撃を受けていると感じている。

彼によれば、私が論説で検討している女性たちは彼の著書のテーマとは何の関係もない。したがって彼の主張や議論とは関連性をもたない。その上、女性の脱落は彼のいかなる性差別を反映したものでなく、むしろ「歴史的真相を正確に反映した」ものであると、Stoddart は主張している。そのセンテンスの後半の部分に関してはここで同意する。女性は地理学の歴史において目立って現れたことはなかった。そして正にその事実が私にこの論説を書くことを促したのである。私の疑問はなぜ我々が創り出してきた歴史的現実において、なぜ女性と女性の経験は「系統立った」歴史の流れに対する例外としてのみ現れているのか？私が自分の議論をこれらヴィクトリア期の女性旅行家に集中させようとした理由の一つは、彼女たちの人生や話は、科学的な学問としての地理学の出現と同時に起こったものだからである。私が問うていることは、女性「旅行家」を地理学者として不適任とするのに役立つ「当時出現しつつあった標準」の論拠である。RGS のメンバーであるという意味での地理学者というタイトルは、科学的探検やフィールドワークの「出現しつつあった標準」のみならず、人種、階級、ジェンダーの「標準」をも論拠として人物に授与された。

George Curzon が 1893 年に非常に雄弁に述べたよ

*フロリダ大西洋大学

**お茶の水女子大学・院

うに (Stoddart が脚注 3 で言及している引用文に加わる) : 「FRGS (Fellow of the Royal Geographical Society) のタイトルをさまよえる女性たちが名刺や著書で誇示する状況が避けられないために、タイトルの市場価値が下落せざるを得ないなどということ私は断じて望まない」 (Birkett, 1989, p.220 より引用)。「出現しつつあった標準」は多少専門家の門番として役に立つ人物の個人的な標準のようである。

Stoddart 自身も指摘しているように (Stoddart, 1986, pp.149-150)、「出現しつつあった標準」は地理学者としての範疇に含まれるための唯一の基準ではなかった。Francis Young husband は、アジアを巡る旅において、系統立った観察を全く行わなかった (Stoddart, 1986, p.150) が、にもかかわらず彼は RGS のゴールドメダルを授与された。Isabella Bird のさまざまな旅における観察は系統立ったものではないということ私は疑う。Mary Kingsley は彼女自身を英国の科学者集団の一員とみなし、西アフリカへの計画されたいくつかの旅に着手した。そのいくつかは、Stoddart の言葉を借りれば、探検的と呼ぶことができ—Kingsley はヨーロッパ人がだれも試みたことのないルートをとって、Ogoue から Remboue 川を横断した—、またいくつかの旅は野生動物 (彼女はいくつかの新しい魚の種類を確認した) や文化的工芸品の見本の系統立った収集という意味におけるフィールドワークを含んでいた (Frank, 1989)。けれども、彼女が Mount Cameroon の頂上に到達した時、男性の同伴者はすべて途上において失われていたので、彼女は正に彼女の名刺を残したが、しかし FRGS のタイトルは彼女の名前の横にはなかった。

David Livingstone が最近気づかせてくれたように、「地理学は異なった場所において、異なった人々にとって、異なったものを意味してきた。したがって地理学の“本質”は常に取り決められている」 (Livingstone, 1991, p.335)。女性たちによる個人的な場所の経験にもとづいた知識の主張が、それらが地理学の世界で強い力を持つようになる恐れがあるとみなされた時に、適切な地理学的知識の領域から組織的に排除されたのは単なる偶然の一致であろうか？地理学という学問を支配している男性の小さな集団の思慮ある自覚的な努力を私は促しているのではない。確かに数人に対してはそうではあるけれども。しかし「近代」地理学の創

立者と自らの業績を記録にとどめられている人々のほとんどは、女性を地理学における活発な「交渉者」として受け入れることも、彼ら自身のものとは異なる地理学のヴィジョンを受け入れることもできなかったと私は言いたい。

私が Stoddart を理解する限りで言えば、私の論説に関する彼の他の主要な問題は地理学のフェミニスト歴史叙述 (feminist historiography of geography) のための私の提案に関係している。私が論説で言及していない地理学の女性はたくさんいると Stoddart が述べる時、彼は全く正しい。地理学に貢献し、そのようなフェミニスト歴史叙述 (feminist historiography) の支援なしに自らのキャリアと学識を極めた女性たちに関する Stoddart のリストを見ると元気づけられる。恐らくそのリストに加えられる女性はまだいるだろう²⁾。しかしながら、私はヴィクトリア期の女性「旅行家」を論じることを敢えて選ぶ。それは正に彼女たちが我々地理学の歴史に容易に適応され得なかったからである。;彼女たちの話はまさしくその歴史の根拠に異議を唱えた。フェミニスト歴史叙述 (feminist historiography) によって私が意味するものは、「ヒーロー」についての長々とした説明に女性を単に付加するのではなく (これ自体は正しい方向性の第一歩ではあるが…)、歴史を文脈として理解する際に女性の経験とジェンダー関係の視点を考慮する歴史である。論説で述べたように、フェミニスト歴史叙述 (feminist historiography) は以下のことを含む：

- (1) 地理学の定義を広範囲化すること。その結果我々は“偉大な”西欧の思想家の規範に我々自身を閉じ込めなくなる (Domosh, 1991, pp.101-2)。
- (2) ジェンダーの関係性と表象が知識の社会的構築にとって絶対に必要なものであると認識すること (Domosh, 1991, p.102)。
- (3) 地理学の歴史を我々が記述する際の自覚と内省。

地理学のこれまでに書かれてきた歴史は、女性が含まれていないというばかりでなく、男性によって規定された地理学や歴史の定義に基づいているという理由において、性差別的である。

フェミニスト歴史叙述 (feminist historiography) という私の呼び方は、「解釈上の気まぐれ」を表している

とは思わない。私は論説でそのような歴史においては何が含まれるかをかなりはっきりと述べた；どちらかと言えば、フェミニスト選択肢を伝統的であるよりは、はるかに文脈的なものとして見ており（よって「東の間の現在の気まぐれ」に陥りにくい）、時間と空間の特異性に対して敏感である。そうすることによって、フェミニスト歴史叙述 (feminist historiography) は地理学史家の仕事を補足し、Livingstone によれば、したがってそのことは、どのようにしてまたなぜ特定の慣習や手続きが、異なる瞬間と異なる空間的配置において地理学的に正当であり、よって規範的とみなされるようになったかを確かめることが多少なりともできる (Livingstone, 1991, p.335)。

Stoddart の『On Geography』を読んで驚嘆すべきことは、彼の「ますます遠くなる過去」の人物たちが依然我々に語りかけてくることである。それは恐らく彼らが Stoddart を感動させ、彼がその興奮を我々に取り次ぐことができるからであろう。Mary Kingsley のような女性たちもまた我々に語りかけることができる（そして彼女たちは異なることを言うかもしれない）—しかし、我々すべてが聞く耳を持っているかどうか私には定かではない。

注

1) 彼の著書におけるコメントが証明しているように、女性に関する彼の「同情」はかなり明白であることもまた同意する。控えめに Stoddart が示唆しているよりも多くの女性が『On Geography』には登場している。事実、同書の口絵は 18 世紀における三人の裸婦のイメージがうまく描かれている。中央の白人の姿はヨーロッパを、両側の有色の女性はそれぞれアフリカとアメリカを表象している。女性による違いと異なる人種による違いを表現したイメージは、ある特定の自然科

学の伝統によって支配されたアカデミックな学問の出現を論じた書物のためには明らかに適切な選択である。

同書の Stoddart の脚注を注意して読んでみると、多くの興味深い情報の破片が現れてくる。あるものは、不正な性差別的行動やエキゾチックな出会いを求めて遠くまでもはや旅する必要がない「淑女の大学生」に関係している。(Stoddart, 1986, p.105)

2) Janice Monk は 20 世紀前半のアメリカにおける女性地理学者のキャリアを検証し始めた (Monk, 1989) が、彼女のリストは私が知る限り最も広範囲に及んでいる。Ellen Churchill Semple はかなりの注目を得ており、Mildred Berman が証明したように、その注目は男性によるものばかりではない (Berman, 1974)。

文献

- BERMAN, M. (1974) 'Sex discrimination and geography: the case of Ellen Churchill Semple', *The Professional Geogr.* 26:8-11.
- BIRKETT, D. (1989) *Spinsters abroad: Victorian lady explorers* New York: Basil Blackwell.
- DOMOSH, M. (1991) 'Toward a feminist historiography of geography', *Tans. Inst. Br. Geogr.* 16:95-104.
- FRANK, K. (1986) *A voyager out: the life of Mary Kingsley* New York: Ballantine Books.
- LIVINGSTONE, D. (1991) 'Does geography have a nature? The dilemmas of definition', *Ann. Ass. Am. Geogr.* 81:334-7.
- MONK, J. (1989) 'Women geographers and geographic institutions, 1900-1950', paper presented at the 1989 AAG meeting, Baltimore.
- STODDART, D. (1986) *On geography and its history* New York: Basil Blackwell.
- WRIGHT, J.K. (1974) 'Terrae incognitae: the place of the imagination in geography', *Ann. Ass. Am. Geogr.* 37:1-15.